

「情報モラル」の重要性とは

6月10日（水）

本日6校時に「情報モラル講演会」を行いました。ゲストティーチャーは、KDDI 瀬町俊彦氏に授業をしていただきました。
※SHR でパンフレットを配布して感想も書きました。今やインターネットは、私たちの生活や仕事になくてはならない存在です。しかし、SNS によるいじめや、チェーンメールなどが社会問題化するたびに、ネットの便利さや楽しさと危険は隣り合わせであり、子どもたちにも早くからその自覚を持たせるべきだ…という



議論がされ、スマートフォンになる前の携帯電話の時代から、学校においても「情報モラル教育」が年間を通して実施されてきました。教育の情報化を推進するため、文部科学省がまとめた手引では、各教科の指導に ICT（情報通信技術）をどう活用するか、プログラミング学習をどう進めるか、といった話の前に「情報モラル」を取り上げ、その教育が「極めて重要」としています。たとえば、情報を正しく判断する力や、人とコミュニケーションをとるための礼儀などは、ネット上でなくても必要な「日常モラル」です。そこに、▽世界中の誰からも見られる可能性がある「公開性」▽一度発信した情報や、発信元は取り戻せない「記録性」……といった「インターネットの特性」や、夢中になってやめられなくなる「心理的・身体的特性」、いつでもどこでも接続できる「機器やサービスの特性」などの「情報技術の仕組み」を組み合わせて、情報を判断したり、自分が発信したりすることが必要だ、としています。さらに、情報モラル教育を発達段階に応じて行うよう、モデルカリキュラムも例示しています。SNS 上では、友達同士のメッセージのやりとりの中で、事件や事故のニュースを話題にすることもあるでしょう。その情報をシェア（共有）するのは簡単ですが、信ぴょう性を確かめずに拡散してしまうと、思わぬトラブルにつながる恐れもあります。ニュースがどのように作られ、伝わるかという「メディアリテラシー」の教育も充実させていくべきでしょう。子どもたちがネットに接する時間も増えました。コロナ後、学校で児童生徒1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを整備する GIGA(ギガ)スクール構想もどんどん進んでいます。子どもたちが安心してデジタル機器やネットを学習に活用するためにも、改めて「情報モラル」

と、その教育に目を向ける時期が来ています。

〇1 年生校歌コンクールの様子

